

な討議ができないまま時間切れとなってしまいました。

この討論では結論をまとめることはしませんでした。議論の中で、結果よりプロセスを大事にする教育が必要であること、疑似科学に対しては科学者として曖昧に見過ごさないことの2つの点について意見の一致を得たと考えます。しかし現

在マスコミが自粛しているエセ科学番組はオーム事件が一段落するといずれ復活することが予想されますので、今後もこのような議論の継続が必要であると思われます。

司会者の役不足で十分な議論、報告ができなかったことを深くお詫びいたします。

(文責：フォーラム実行委員 沢 武文)

1995年天文教育普及研究会年会の報告 (第9回天文教育研究会)

8月1日から4日まで兵庫県佐用町の西はりま天文台公園において標記の会が開催された。

昨年の年会以来、この1年間には阪神大震災があり、オウム事件があった。これらを考えるとき、教育の重要性を改めて感じる。折しも、教育課程改訂の動きが具体化し、本会も2月に文部大臣宛に要望書を提出した。4月に中央教育審議会が開かれ、来年、教育課程審議会が開かれるという状況を踏まえ、本会年会では教育課程・学習指導要領に関する短期的・長期的な討論がされた。

今回の年会テーマは、「宇宙を見る目を育てる—天文教育実践の今—」で、森一夫大阪教育大学教授が基調講演をされた。天文学とは異なった専門の先生の有益なお話をうかがうことができた。さらに、各発表者からそれぞれの職場、それぞれの立場での実践報告がされた。

運営委員会・総会では、サマータイム制度法案が9月29日からの臨時国会には提出される(新聞報道)という情勢のもとにその制度について討議された。まず、新聞報道されているサマータイム制度導入によるメリットとデメリットが検討された。標準時を1時間進めた場合に会社・学校等の終業時刻を変えないならば、実質早く終業することになるので、終業後の明るい時間が増えることになる。逆に、午前0時までの暗い夜の時間が減ることになる。

メリットとしてあげられていることは、寝る時

刻を変えないならば、寝るまでの暗い時間が少なくなるので、照明等の使用量が減り、省エネになるというものである。これが資源エネルギー庁が積極的に導入をはかろうとしている理由で、背景には地球温暖化防止条約のCO₂削減がある(効果は別にして姿勢を示したいらしい)。また、終業後の明るい時間が増えるので、スポーツ等の余暇活動が広がる、と推進派(サマータイム制度研究議員連盟代表世話人の元法務大臣田沢智治等)はいつている。

それに対して反対派の意見はつぎのようなものである。日本の夕方は暑いので早く寝てもエアコンを使うので省エネにならない。また、家庭電力消費量は全体の1/4にすぎなく、残りの大部分の産業用電力消費量は時短でもないかぎり減らない。「ゆとり」、余暇活動については、夕方の1時間を新たな余暇に使ってしまうと睡眠時間を削るのでなければ従来の生活内容を削減することになる。したがって、それほど余暇活動も増えない。さらに、時刻により制御されている多くの機器の設定を変更するための余計な労力と出費が必要となる。もっと建設的なものにしたいものである。

その他、いろいろなデメリットがあるが、天文教育普及研究会は天文学的・教育的立場からサマータイム制度導入により生じる不都合を明らかにし、慎重な対応を要望することとなった。不都合なこととして、0時前の暗い夜の時間が少なくなるので、天体観望会の開始時刻が遅くなり、開催しづらくなる。太陽の南中時刻が12時から大幅にずれる。また、年間を通じて同一の時刻系でなくなり、教育現場に余計な混乱を持ち込むことになる。

関連学会にも不都合な点をあげてもらおうための
討論資料として要望書と添付資料とを送付した
(天文学会は理事会での討議をしていないとのこと
で、秋季年会の総会では資料としてのみ配布され
た)。

サマータイム制度法案はいつでも国会提出でき
る状態にある。国民生活に密接に関係する制度が
いつの間にか導入決定、ということにならないよ
うにすべきであろう。

研究会の1995年年会も近畿支部役員・西はり
ま天文台職員(台長黒田武彦氏)のお蔭をもち、
無事、成功をおさめることができた。1996年の年

会は8月1日～4日に妙高少年自然の家において、
中部支部長沢武文氏・上越天文教育研究会会長江
口元一氏を中心とする方々のお世話により開かれる。

なお、1995年年会の集録(送料含み2000円)、
1994年年会集録(送料含み1500円)、1993年年
会集録(送料含み1000円)、1992年春の共催フ
ォーラムの内容をまとめた冊子「天文教具」(送料
含み500円)を希望の方は代金相当の切手を下記
に送付ください。(研究会会員は、集録は無料)

天文教育普及研究会会長 水野孝雄

〒184東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学地学教室内

寄贈図書リスト

「宇宙開発秘話」, 読み物, 齋藤成文著, 三田出版会,
A5判, 347p, 2400円,

月報だより

人事公募

標準書式: なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下
さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員(ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・
所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担
当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7.
提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2)
問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他(待遇など)

京都大学理学研究科宇宙物理学教室教官

1. 助教授1名 および 助手1名
2. (1) 京都大学理学研究科宇宙物理学教室
3. 天体物理学(理論, 観測, 光学観測機器開発)
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. 履歴書, 研究経歴および論文リスト, 主要論文別刷,
研究計画書
8. 公募締切: 平成7年12月22日(金) 必着
9. (1) 〒606-01 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学研究科宇宙物理学教室
主任 加藤正二 Tel.075(753)3901
10. 提出書類に、「助教授に応募」、「助手に応募」、「助

教授または助手に応募」の別を明記すること。

国立天文台教官公募

1. 助手1名
2. (1) 岡山天体物理観測所
(2) 岡山県浅口郡鴨方町(将来ハワイ派遣の可能性も
ある)
3. 光学赤外線天文学および関連分野
岡山天体物理観測所は、共同利用施設として188 cm
望遠鏡等の運用を行うとともに、大型光学赤外線望遠
鏡計画推進部、光学赤外線天文学研究系と協力して、
ハワイに建設中の「すばる」望遠鏡等につながる開発
研究に力を注いでいます。観測装置の開発等を積極的
に進め、観測所勤務の利点を生かして、観測的研究を
意欲を持って行おうとする若手研究者を求めます。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴(これまでの研究内容の概略
を含む), (3) 研究論文リスト, および主要論文別刷,
(4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人
2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に、
前期事項(1)~(5)の概略のわかる書類。
8. 締切: 1996年1月10日 必着。
9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一